

大阪府立母子保健総合医療センターと地域との連携

(分担研究：小児病院の地域保健に対する支援体制に関する研究)

研究協力者 岡本 伸彦¹⁾，竹内 徹²⁾

要 旨：大阪府立母子保健総合医療センターは昭和56年に周産期医療センターとして発足し，平成3年に小児医療部門が診療を開始した。当初から保健所との連携を念頭に置き，病院部門とは別に企画調査部地域保健室が設置された。地域保健室には医師と保健婦が配属され，センターを利用する患者の保健指導，保健所との連携業務を行う他，調査研究や普及活動による大阪府全体の母子保健の推進という役割を持つ。周産期医療センター時代からハイリスク新生児については保健所と共同してフォローアップを行ってきた。近年は小児虐待などの養育問題や慢性疾患を持つ小児のQOL向上など新しい課題が比重を増している。
見出し語：地域保健，小児慢性特定疾患，保健所，フォローアップ

【目的と方法】大阪府立母子保健総合医療センターと保健所との連携について検討した。最近の当センター統計資料などから分析を行った。保健婦に対するアンケートも実施した。

【結 果】

(1) 保健所への技術援助

保健所では一次健診業務の他，二次健診やハイリスク児の健診・相談，障害児のフォローが実施されている。当センターは紹介型医療機関であるが，外来患者の約15%は保健所からの紹介である。府下の5保健所に当センター医師が出張してクリニックに参画しており，保健所との連携推進と地域の母子保健水準の向上に成果を上げている。

(2) 保健婦研修会

保健婦に対しては，府庁担当課による各種研修

が実施されているが，それに加えて当センターで

表1 保健婦研修会の内容

乳幼児の整形外科疾患
乳幼児の耳鼻咽喉科疾患
乳幼児の泌尿器科疾患
乳幼児の眼科疾患
乳幼児の脳神経外科疾患
乳幼児のてんかん
乳幼児の腎疾患
染色体異常症のトータルケア
更年期に多い疾患
小児保健の実践における法医学的視点
乳児期早期の発達と疾病
母性内科からみたハイリスク妊娠
在宅酸素療法と育児の問題
乳幼児健康診査における母子関係の見方

も小児医療の最近のトピックを中心にした各種研修会を実施している。最近2年間に地域保健室が主催した研修会の内容を表1に示す。保健婦以外

大阪府立母子保健総合医療センター 1) 企画調査部 2) 助産婦学院

Osaka Medical Center and Research Institute for Maternal and Child health

に心理職員，看護婦などを中心に毎回50～70名の参加を得ている。

また，市町村で乳幼児健診が実施されるのに伴い，数カ所の地域に出張して健診に関する指導を実施した。

（3）マニュアル作成

厚生省心身障害研究の予算に基づき，極低出生体重児保健指導マニュアル「早産で生まれた子どもたち」（A4判75ページ）を作成し，府下保健所に配布した。新生児科および各専門診療科の医師，コメディカルスタッフの分担執筆である。

（4）新生児フォローアップ

企画調査部はセンターを退院した新生児について，病院部門・保健所と協力してフォローアップ事業を行っている(1,2)。この成果は（3）で述べたマニュアルにも反映された。

地域保健室の保健婦は，新生児の退院前に親に面接・相談を行う。親が医療側から受けた指導を退院後に家庭で実践することが目的である。後で述べるような養育問題が予想される場合は特に慎重な連携が行われる。

保健所には診療報告書，家庭訪問依頼書を送る。その内容は，診断名，治療・看護経過，予後リスク因子，予想される養育問題，関係機関への依頼事項，フォロー計画などである。訪問依頼を受けた保健所保健婦は，家庭での児の状況，育児・生活状況，診療への依頼事項，援助計画などを報告し，当センターでの診療や保健相談にフィードバックされる。

ハイリスク児についてはセンターでのフォローアップ外来での継続健診を行うが，保健所健診も並行して受ける場合が多い。

最近の家庭訪問依頼数を保健所のブロック別に

集計した。大阪府は22保健所7支所を持ち，政令市の東大阪市，堺市，大阪市は府と別に保健所を持つ。診療報告書は正常新生児でも発送しているが，家庭訪問依頼書を同封するのは低出生体重児などのハイリスク新生児である。当センターは泉州ブロックに位置するので近隣の保健所との連携が多いが，新生児搬送システムにより遠方から来院する場合もあり，約1割は他府県の保健所との連携になる。

表2 家庭訪問依頼数など

	92年	93年	94年	95年
診療報告書発送数	1768	1444	1563	1450
家庭訪問依頼数	283	285	275	282
北摂ブロック	15	4	12	11
京阪ブロック	7	17	9	15
東大阪市	12	12	13	11
河内ブロック	41	41	45	54
堺市	77	72	73	77
泉州ブロック	70	82	67	52
大阪市	27	32	29	36
他府県	34	25	27	26
家庭訪問報告書	242	200	185	205

（5）養育問題への対応

①低出生体重児のフォローアップでは，医学的問題以外に養育問題が重要である(3,4)。当センターフォローアップ外来では各科医師の診察以外に保健婦による面接相談が行われる。ここ4年間で相談に上がった内容を表3にまとめた。

育児援助者の不在などの家庭育児が危惧される場合，社会経済的リスク，障害の告知や受容の問題，強い育児不安や育児ノイローゼ，若年の母な

どが対象となる場合が多い。母親に慢性疾患や障害、産褥精神疾患があり、育児過誤やネグレクトが予想される例もある。

表3 フォローアップ外来での相談

	92年	93年	94年	95年
延べ保健指導数	902	1108	975	991
家族の問題	545	540	487	495
家庭保育の問題	303	325	314	151
発達の遅れ、障害	66	66	63	46
育児上の問題	87	41	19	12
母子関係の問題	10	12	9	3

②平成3年に小児医療部門（こども病院）がオープンした。小児医療部門での保健指導数は増加した。小児医療部門においても低出生体重児と同様、養育問題への対応が必要である（詳細は昨年度の本報告書に記載したので本年度は略す）。

対象となる疾病の内容は複雑化しており、希少症候群や新しい検査診断法、治療法などに関しては適宜資料を同封するなどしている。

（6）カンファレンス

養育問題が顕著な場合、対応方法を検討するために地域保健室では各科医師、心理職、ケースワーカー、看護婦など関係スタッフとカンファレンスを行う。保健所や児童相談所、家庭児童相談室などの外部機関も加わったカンファレンスになる場合もある。各機関が問題点を認識・共有し、援助方針を一致させて役割分担と連絡方法を明確化することにカンファレンスの意義が存在する。最

近のカンファレンスのテーマを表4にまとめた。対象は周産期部門だけでなく、小児医療部門も含む。

表4 カンファレンスのテーマ

分 類	92	93	94	95
被虐待児および疑い	6	4	10	12
疾病・障害の受容困難	1	3	3	2
母親の疾病・障害	5	11	3	4
在宅看護育児体制支援	14	16	15	8
合 計	26	34	31	26

表4をみてわかるように、被虐待児に関する問題が増加傾向にある(5)。当センターを退院し、平成7年までに小学校2～3年生に達した超低出生体重児238人中、18人の被虐待児が存在した(4)。虐待の種類は身体的虐待が3人、ネグレクトが9人、両者の合併が6人であった。このうち5人は施設に入所した。

単に出生体重が小さいだけで虐待に結び付くわけではなく、複雑な背景が存在する。しかし、健康・発達面の不安や低出生体重児特有の育児負担の増強は大きな要因であり、これらの軽減が必要である。医療、保健、福祉の連携が最も重要なテーマである。

上記のカンファレンスとは別に、近隣（堺市、泉州ブロック）の保健所と合同で泉州小児虐待防止研究会を発足させた。月1回事例を呈示して自由な討論を行う機会を設けている。

（7）保健婦アンケート

先に述べた保健婦研修会の際、参加した保健婦にアンケートを実施し、保健婦の小児医療・保健に関する情報や当センターへの希望などを質問した。有効回答数は113人であった。

①回答者の構成（図1，2）

市町村，政令市保健婦が69％を占めた。経験年数も10年未満が75％と比較的若い世代の保健婦からの回答が多かった。

②「研修内容の希望」について質問した（図3）

約3分の1の回答者が「育児指導」についての研修を希望した。近年，育児に関する書物は多く出版されているが，記載内容は千差万別であり，混乱している現状がある。知識の整理をしたい，基準とすべき見解を得たいという意見があった。

次いで神経疾患や発達の見方に対する希望も多かった。心疾患などの小児慢性特定疾患や小児成人病に関する希望もあった。

③「普段利用する小児の医学・保健に関する情報源として何が多いか」質問した（図4）

「書物」が最も多かった。「健診に来る医師」や「先輩保健婦」という回答も多かった。しかし，「情報を得られず困ることが多い」という回答が2割近くあった。

④「さらに効率的に情報を入手するには何がよいか」質問した（図5）

「気軽に相談できる機関（人）」が最も多かった。「パソコン通信やインターネット利用」を希望する人も多かった。

⑤どのような「マニュアル」があれば日常の保健指導に有効と考えるか質問した。

先に述べたように極低出生体重児の保健指導マニュアルを作成した関係でこの質問を行った。「小児疾患マニュアル」を希望する回答が多かった。その他，「発達に関する保健指導マニュアル」，「保健指導・生活指導」，「ダウン症，染色体異

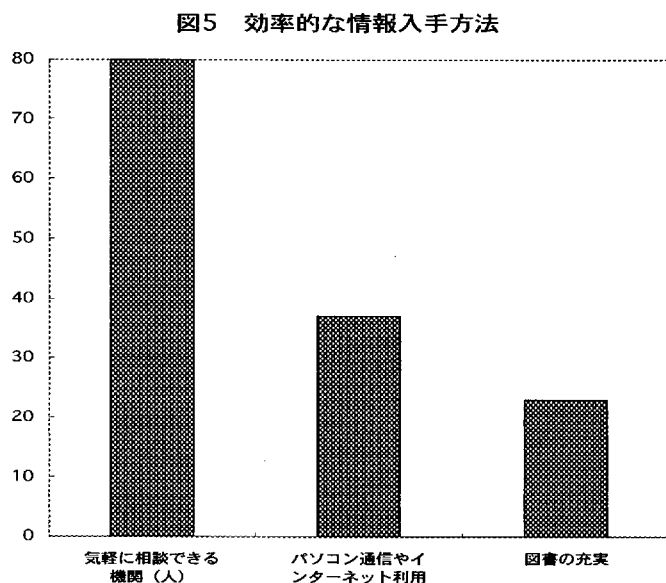
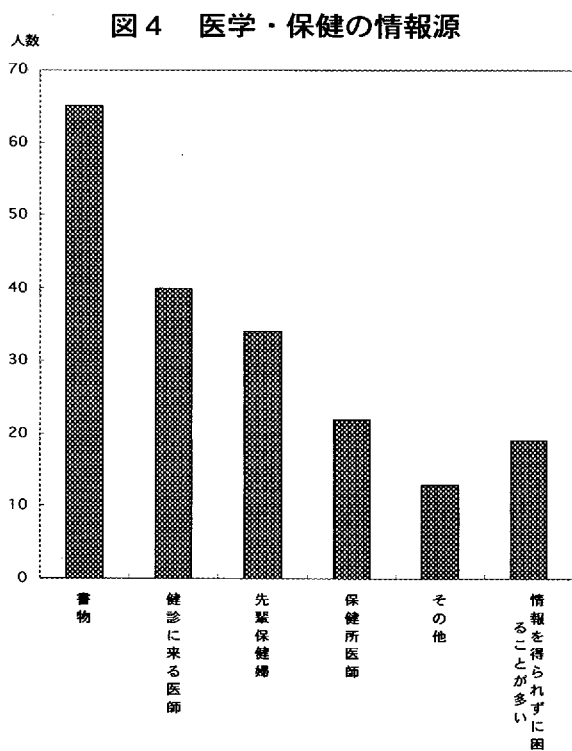
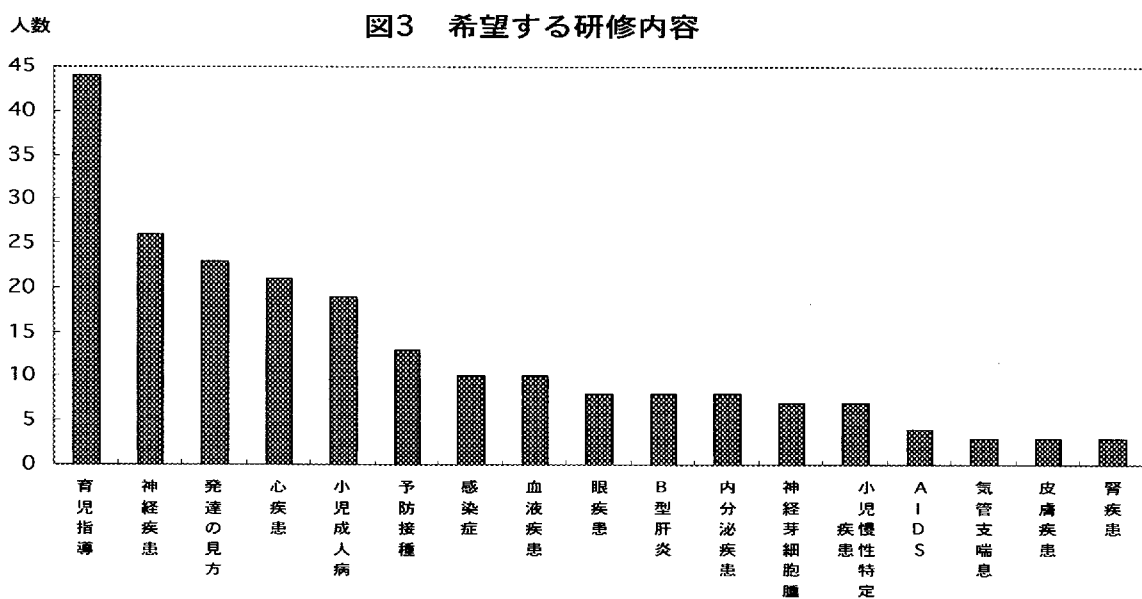
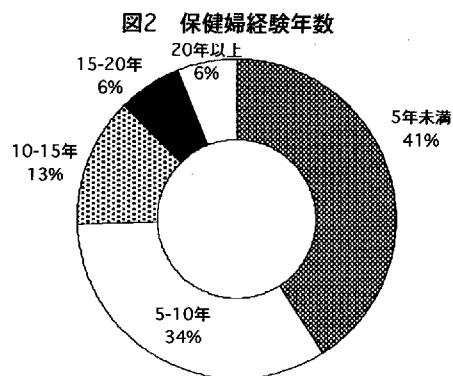
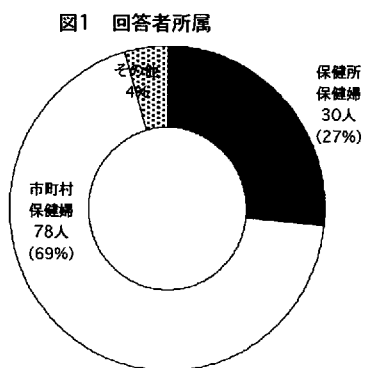
常」，「合併症妊婦」，「小児虐待」，「医療機関・社会資源一覧」，「感染症」，「口唇口蓋裂」，「先天性心疾患」，「アトピー性皮膚炎・気管支喘息」，「重症心身障害」，「高度先進医療」，「小児疾患治療指針」などが希望としてあげられていた。

⑥「保健婦が小児専門医療機関に望むこと」を質問した。

やはり情報発信源としての機能を求める意見が多かった。

表5 保健婦が小児専門医療機関に望むこと

医学情報，保健指導情報の発信源
二次健診機能の充実
専門医の派遣
気軽に相談できる機関
研修機関
ケースの相談，助言指導
地域の医療機関のレベルアップ
開業医との連携
市町村のレベルアップ
低出生体重児の育児サークル
障害児の通所，リハビリ



【考 察】

大阪府立母子保健総合医療センターと地域との連携の概要をまとめた。

当センターではハイリスク新生児については以前から保健所と連携したフォローアップ体制を確立している(1,2)。ハイリスク新生児に限らず、障害児、慢性疾患児、在宅医療を要する小児に対しては医療・保健・福祉・教育の有機的連携が必要である。特に保健所は乳幼児健診後の精密検査などで患者を紹介するとともに、保健指導や療育相談などを行うなど連携の機会が多い。

当センターでは企画調査部地域保健室が地域との連携の窓口となっているが、小児病院においてはこうした「保健」の領域を担当する機関は一定の役割を持つと考えられる。医学的な面だけに留まらず、養育問題、心理的問題、社会・経済的問題に対しても対応することがトータルケアの目標と考えられる。

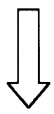
保健婦による相談や家庭訪問は、栄養・感染予防・遊びの工夫などの具体的な指導や育児不安の受け止めに有効である。育児支援体制整備・在宅医療の推進のための社会資源の把握と適用も行われる。また、保健所では、専門医によるクリニック、講演会や医療相談、患者会活動への支援も実施される。このような多彩な機能のコーディネーターとしての保健婦活動は重要性を増して行くと考えられる。小児病院においてはこうした現場への専門医の派遣はひとつの役割であろう。

保健婦に対するアンケートでは医療や保健の情報不足が問題と考えられた。一般的には保健所は図書設備が不足している。保健所の役割は医療機関とは異なり、各種疾病の病態や治療法などの詳細は必要ないが、保健指導のための最低限の知識や住民からの一次相談機関としての情報は必要である。小児病院には保健所からの質問や相談に気

軽に対応する体制も必要と考えられる。インターネットでは各種の医療情報が利用可能であり、今後その利用は増すと考えられる。わが国でも小児医療機関が発信源となって保健・医療の各種の情報を提供し、他から自由にアクセスできるような状況が進むことが期待される。

【参考文献】

- (1)岡本伸彦：大阪府における取り組み－周産期医療センターと地域との連携 生活教育特集号「新しい母子保健に向けて」ヘルス出版（投稿中）
- (2)中西眞弓，他：周産期センターにおける医療と保健の連携．周産期医療の理論と実践．メディカ出版．竹内 徹監修 409-418,1992.
- (3)岡本伸彦，他：超未熟児の養育問題と地域母子保健．小児科臨床．47:1825-1830,1994.
- (4)岡本伸彦，他：超低出生体重児のフォローアップにおける医学的・社会的問題への包括的ケア．小児保健研究（投稿中）
- (5)岡本伸彦，他：被虐待児症候群低出生体重児例の検討．小児科臨床．46:1935-1938,1993.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要 旨:大阪府立母子保健総合医療センターは昭和 56 年に周産期医療センターとして発足し,平成 3 年に小児医療部門が診療を開始した。当初から保健所との連携を念頭に置き,病院部門とは別に企画調査部地域保健室が設置された。地域保健室には医師と保健婦が配属され,センターを利用する患者の保健指導,保健所との連携業務を行う他,調査研究や普及活動による大阪府全体の母子保健の推進という役割を持つ。周産期医療センター時代からハイリスク新生児については保健所と共同してフォローアップを行ってきた。近年は小児虐待などの養育問題や慢性疾患を持つ小児の QOL 向上など新しい課題が比重を増している。